

■テーマ展

「岩手の実業家 金田一勝定・国土 ー銀行・電気・鉄道・花巻温泉ー」

会期 平成17年5月21日(土)～7月3日(日) 会場 岩手県立博物館特別展示室

岩手県立博物館では、平成14年度から実業家であった金田一勝定・国土に関わる資料について寄贈を受けました。そこで、テーマ展により、この2人の人物を紹介し、岩手の経済発展に多大なる貢献したことを紹介したいと思います。

金田一勝定

嘉永元年(1848)盛岡生まれ。盛岡銀行、盛岡電気、岩手軽便鉄道の創立に尽力した人物です。アイヌ語研究の金田一京助は勝定の甥にあたります。



金田一勝定

盛岡銀行

明治29年(1896)創立。第九十国立銀行の一室を間借りして営業を開始し、同44年には中ノ橋(現岩手銀行中ノ橋支店。国重要文化財)に移転。県内最大の銀行に成長しました。なお、設計は東京駅の設計者でもある辰野金吾と岩手県出身の葛西萬司です。勝定は取締役。

盛岡電気

明治37年(1904)盛岡電気会社として創立。盛岡市を供給区域として、梁川の水力を利用した岩手県下で最初の電気事業です。後に、中小の電気会社を合併し、盛岡電灯、奥羽電灯、東北配電と改称し発展していきました。

岩手軽便鉄道

明治44年(1911)岩手軽便鉄道株式会社として創立。岩手軽便鉄道は花巻から仙人峠まで(65.4キロ)の軽便鉄道です。(後にこの区間は軽便鉄道を主体に改築し、国鉄釜石線となります)当時、東北線が開通し、岩手県の内陸部と沿岸部を結ぶ交通網の整備が必要でした。釜石側には釜石鉱山鉄道が走っていたものの、遠野側と釜石側とは隣の駅で水平距離4キロに対し、約300メートルの高低差がある交通の難所仙人峠(海拔887メートル)が人々の行く手を阻んでいました。そしてこの仙人峠を通る難工事に着手したのが勝定でした。しかし、この巨大な壁を越すことができず、あと数キロと迫りながら断念せざるを得ませんでした。この後、事業は国鉄が完成しました。

金田一国土

明治16年(1883)青森県三戸生まれ。矢幅徳四郎の次男。同37年(1904)勝定に見こまれて金田一家の養子になります。

盛岡銀行頭取。盛岡電気工業社長。岩手軽便鉄道社長。盛岡信託会社社長。盛岡貯蓄銀行頭取。三陸水産冷蔵会社社長。花巻温泉社長。花巻温泉電気鉄道社長など県内の銀行、運輸、交通、電気などの各界の中心的な地位になりました。



金田一国土

花巻温泉

金田一国土の花巻に宝塚に匹敵するリゾート地を建設するという構想のもと、大正12年(1923)8月、台温泉から湯を引いて営業を開始し、花盛館、松雲閣、紅葉館、蓬莱館、千秋閣の旅館群の他に公会堂、遊戯場、動物園、テニスコート、陸上競技場、野球場、プール、スキー場などの総合レジャーランドを建設し、花巻温泉は湧き出る湯のように発展していきました。

花巻電鉄

明治24年(1891)東北線が青森まで全通した後、同44年に岩手軽便鉄道(花巻～仙人峠)が開通しました。しかし、花巻駅から志戸平・大沢・鉛までは徒歩、かごや馬車を利用するしかありませんでした。そこで、湯治客の不便を解消すべくまた盛岡電気による電気事業として、鉛線(大正4年、一部開通。同14年、岩手軽便花巻～西鉛が全線電化)と花巻温泉線(大正14年、西花巻～花巻温泉、花巻温泉建設の付帯事業)が開通しました。

この2路線は、鉛線が昭和44年に、花巻温泉線が同47年に廃止となりましたが、現在は、花巻温泉線の線路跡をサイクリングロードとして活用し、車窓から眺めた風景を歩いてまたは自転車に乗りながら、昔を懐かしむことができます。



花巻温泉サイクリングロード
(学芸調査員 菅野 誠喜)

展示解説会 特別展示室

- ① 5月22日(日) 14:00～
- ② 6月26日(日) 14:00～